

どんな仕事？技術職員

当センターには技術職員という職があり、現在3名が従事しています。外部の方から「技術職員とはどんな仕事をするのですか？」といった質問をよく受けます。今回は、その質問にお答えします。▼私達の業務内容は「施設の維持管理」や「教育・研究の補助」など多岐にわたります。それらの業務の中から「研究の補助」に入る「リタートラップを使用した観測」について紹介します。▼この研究では、森林での樹木の毎年の生産量や窒素循環などの様子を調べ、森林がどのように変わっていくのかを観測していくことが主な目的です。作業内容は、まず

雪解けに合わせて図1のような*1トラップを林内に30個設置し、次に一ヶ月ごとにトラップ内に入った*2リターを回収します。回収してきたリターは自然乾燥させ各項目に仕分けした後、乾燥機にて2日間乾燥させ計量といった作業をしていきます。▼何れの工程もかなりの



図1 リタートラップ



回収したリター

の労力がかかります。中でも各項目への仕分けは非常に根気のいる作業です。アカマツの葉、シラカンバの花序、ミズナラの樹皮など25種類ほどの項目あり、その仕分けを行うのですが、細かい種子や樹皮などどの項目に入れたら良いのか判断に困ることも多々あります。しかし、季節ごとに違うリターを見ることで樹木たちの1年の生活を知る事ができたり、ふと森林の中に入った時「あんなに細かい視点で見えていたものが、こんなに大きな物の一部だったのか！」と感動する瞬間もあり、自然の素晴らしさや楽しさを感じる事ができます。▼この観測は今後も10年20年と継続し森林がどのように変化していくかを「小さな視点」と「大きな視点」の両面から観察・記録をしていく予定です。

*1 1メートル四方のネット
*2 樹上から落ちる葉、花、枝、樹皮、果実などの総称

(正木大祐)

撮影：平成24年10月24日

季節の便り phenology



バラ科バラ属カラフトイバラ
Rosa amblyotis C.A.Mey.



センター内スキ草原



ブナ科コナラ属ミズナラ
Quercus crispula Blume

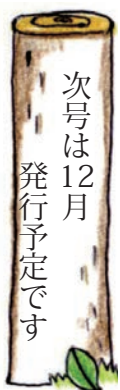
編集後記

菅平の秋は駆け足で過ぎてゆきます。カラマツやミズナラが黄色く色づき、カエデ科の赤が紅葉を一層鮮やかに彩ります。昨年は実をつけなかったセンター駐車場のミズナラ（季節の便り写真）も今年は沢山つけました。大明神の滝までの観察道にも昨年は見つけることが出来なかったクリのイガが沢山落ちています。繰り返す訪れる秋ですが、同じ秋はやってきません。美しい秋の紅葉が繰り返されるような自然を残していきたいですね。

この菅平生き物通信11月号が皆さんのお手元に届くのは11月中旬以降になりますが、編集しているのは10月下旬です。この時期の菅平はいよいよ最低気温が氷点下になり、センターから臨む根子岳、四阿山は頂上付近が白く見えます。「あの、白いものがいつ下へ降りてくるのかなあ」などと考えながらスタッドレスの心配を始めるのもこの頃です。長期予報では、年内は暖冬との予報が出ていますが、どのような冬が訪れるのでしょうか？次の菅平生き物通信では、どんな菅平をご紹介しますことになるのか？ご期待ください。

(池田雅子)

本通信の印刷・配布は、東郷堂さんにご協力いただいています。



次号は12月
発行予定です